

部会員各位

ご本務の大学における図書館情報学教育の 改組・改革に関する情報提供のお願い

2019年6月9日

日本図書館協会図書館情報学教育部会

部会長 大谷 康晴

わが国の少子化による18歳人口の減少は、各大学に多くの影響を与えていて、生き残りを模索した改組・改革が検討・実施されていることと思います。

一方で、2019年3月に日本図書館情報学会は、“図書館情報学教育の現状とこれから”と題するシンポジウムを開催しています。その案内¹⁾では、“諸外国のライブラリースクールでは「ライブラリー」の名称を冠さない傾向が顕著”となり、“国内の筑波大学などでも学内機構改編に伴い、研究科から「図書館」の名称が除かれる方向性にある”ことや、“これまで図書館とのつながりが強く意識されてきた司書課程設置大学においても、…（中略）…、文科省の枠組みに守られた資格付与だけでは、早晚、教育体制が先細りになる”ことが指摘されています。

以上のように、私たち図書館情報学の教育者は、二重の困難を迎えようとしています。図書館情報学がどのような教育の枠組みの中で、どのような知識や技能を提供できるのかについてあらかじめ広く事例を共有しておいて、いざという時に活用していくことが必要となっているといえましょう。

図書館情報学教育部会としては、2019年度第1回研究集会で地域研究に関する専門教育の一環として図書館情報学を提供しようという青山学院大学の事例を紹介していただきましたが、その背景には、ここまで見てきた危機意識によるものです。

部会員のみなさまにおかれては、図書館情報学教育をどのような形で所属大学における改組・改革にご対応されたのか、ぜひご報告いただければと存じます。今期教育部会役員は、何らかの形でご報告の場を提供することをお約束いたします。また、情報の提供も歓迎しています。いずれの場合でもお気軽に kyoiku★jla.or.jp（★を半角@に置換してください）までご連絡ください。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1) シンポジウム（2019年3月）のご案内

<http://jslis.jp/2018/11/19/%e3%82%b7%e3%83%b3%e3%83%9d%e3%82%b8%e3%82%a6%e3%83%a0%ef%bc%882019%e5%b9%b43%e6%9c%88%ef%bc%89%e3%81%ae%e3%81%94%e6%a1%88%e5%86%85/>